

平成24年度

事業報告書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

学校法人 北陸大学

目 次

法人の概要

1 建学の精神	1
2 人材育成の目的	1
3 設置する学校・学部・学科等	1
4 所在地	2
5 沿革の概略	2
6 組織図	3
7 役員・教職員の概要	4
8 設置する学校・学部・学科の名称及び入学定員と学生数	4

事業の概要

事業の概要	5
-------------	---

財務の概要

1 資金収支計算	12
2 消費収支計算	13
3 貸借対照表	14
4 経年比較	15

法人の概要

1 建学の精神

「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める」人間形成

2 人材養成の目的

『大学全体』

北陸大学は、建学の精神である「自然を愛し、生命を尊び、真理を究める人間形成」に基づき、豊かな教養と高い専門知識を身につけ、人格の陶冶を図り、現代の社会・文化の発展と公共福祉の増進に貢献し得る人材の育成を目的とする。

『薬学部 薬学科』

医療人としての倫理観、使命感、責任感及び高度な薬学の知識・技能を身につけ、臨床の現場で実践的な能力を発揮できる薬剤師を養成する。

『未来創造学部』

グローバルな視野と異文化への深い理解、高いコミュニケーション力により、世界の人々と自由闊達に意見交換し、現代社会に生起するさまざまな課題に的確に対応し、あるべき未来を自ら創造できる人間力あふれる人材を養成する。

『国際教養学科』

英語または中国語のコミュニケーション力を身につけ、国際感覚と豊かな教養を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。

『国際マネジメント学科』

国際的な視野での実務的マネジメント力を身につけ、かつ幅広い知識と教養および外国語コミュニケーション力を備えた、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成する。

3 設置する学校・学部・学科等

北陸大学

大学院	薬学研究科	薬学専攻
学部	薬学部	薬学科
	未来創造学部	国際マネジメント学科
		国際教養学科
別科	留学生別科	

4 所在地

法人本部、未来創造学部、留学生別科

〒920-1180 石川県金沢市太陽が丘1丁目1番地

薬学部、大学院薬学研究科

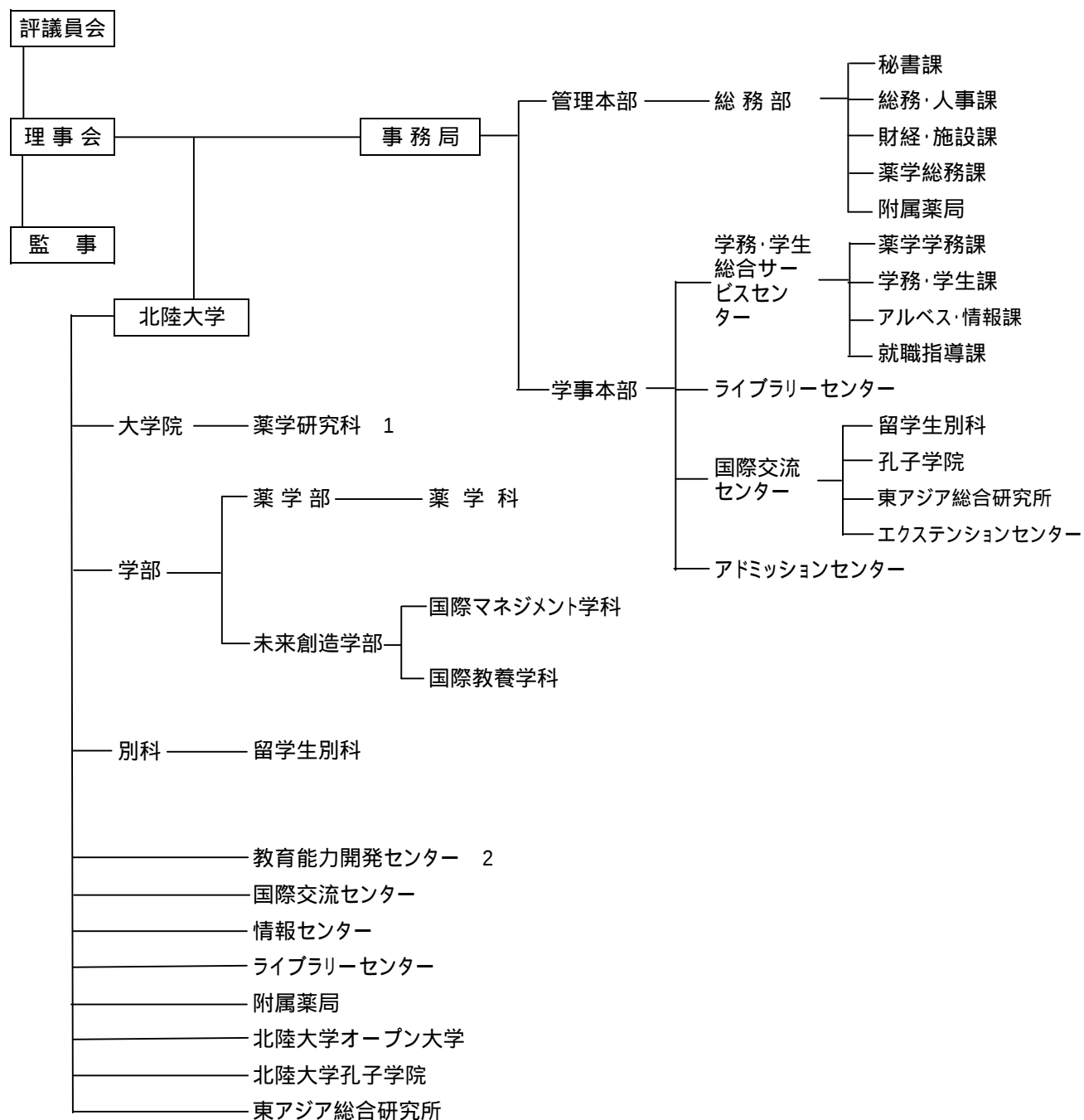
〒920-1181 石川県金沢市金川町水3番地

5 沿革の概略

昭和	50年	2月	学校法人松雲学園設置
		4月	北陸大学開学 薬学部開設 薬学科(定員80人)・衛生薬学科(定員60人)計140人
	51年	4月	薬学部定員増 薬学科(定員120人)・衛生薬学科(定員100人)計220人
	54年	4月	大学院薬学研究科修士課程開設(定員20人)
	58年	4月	大学院薬学研究科博士課程開設(定員5人)
	60年	7月	学校法人北陸大学に法人名称変更
	62年	4月	外国語学部開設 英米語学科(定員120人)・中国語学科(定員40人)計160人
平成	2年	4月	外国語学部臨時定員増 英米語学科(定員165人)・中国語学科(定員55人)計220人
	4年	4月	法学部開設 政治学科(定員100人・臨時定員50人)・法律学科(定員100人・臨時定員50人)計300人
	6年	4月	留学生別科開設(定員30人)
	7年	4月	外国語学部英米語学科編入学定員設定(定員35人)
	13年	4月	薬学部定員増 薬学科(定員140人)・衛生薬学科(定員140人)計280人 外国語学部定員減 英米語学科(定員120人・臨時定員15人)・中国語学科(定員40人)計175人 法学部定員減 政治学科(定員100人・臨時定員15人)・法律学科(定員120人・臨時定員15人)計250人 外国語学部中国語学科編入学定員設定(定員10人)
	15年	4月	法学部編入学定員設定 政治学科(定員40人)・法律学科(定員80人) 留学生別科定員増(定員70人)
	16年	4月	外国語学部及び法学部の未来創造学部への改組・入学定員の変更 薬学部定員増 薬学科(定員230人)・衛生薬学科(定員230人)計460人 未来創造学部開設 未来社会創造学科(定員100人・編入学定員120人) ・未来文化創造学科(定員100人・編入学定員45人)計365人
	18年	4月	6年制薬学部設置に伴う入学定員及び修業年限の変更 薬学部薬学科(入学定員306人)修業年限6年
	20年	4月	未来創造学部 新学科設置 国際教養学科(定員100人・編入学定員45人)・国際マネジメント学科(定員100人・編入学定員120人)計365人

6 組織図

平成25年3月31日現在



1 大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程は、平成24年度から募集停止している。

2 教育能力開発センターは、平成25年3月に廃止。

7 役員・教職員の概要（平成25年3月31日現在）

【役員】

理事	7人
監事	2人

【評議員】

評議員	19人
-----	-----

【教職員(専任)】

教員	123人
職員	65人

8 設置する学校・学部・学科の名称及び入学定員と学生数（平成24年5月1日現在）

北陸大学

大学院

(単位 人)

研究科	専攻	課程	入学定員	収容定員	学生数
薬学研究科	薬学	博士後期	5	15	3

学部

学部	学科	入学定員	収容定員	学生数
薬学部	薬学科	306	1,836	1,084
未来創造学部	国際マネジメント学科	100	640	876
	国際教養学科	100	490	262
	計	200	1,130	1,138
	計	506	2,966	2,222

別科

別科		入学定員	収容定員	学生数
留学生別科		70	70	39

未来創造学部に編入学定員を設定

(国際マネジメント学科120人、国際教養学科45人)

事業の概要

事業の概要

当期に行われた事業の概要は、以下のとおりです。

1. 全学基盤教育に関する事項

(1) 教職員の意識革新と新たな教育プログラムの実施

個々の教育の教育内容や方法の改善及び向上のため、薬学部、未来創造学部が一体となって全学的にFD（ファカルティ・ディベロップメント）に取り組むこととし、FD委員会を3回（11月、12月、3月）開催しました。委員会では、これまでの学生アンケートを見直し、授業の充実等を検討しました。

(2) 実学教育の実施

薬学部では『「人が生きている証＝バイタルサイン」を感じる』を実学教育の目標として1年次から病院・薬局・ドラッグストア・介護施設での早期体験学習や不自由体験を実施しています。心肺蘇生法などの知識や技能習得、MTRでのバイタルサイン確認、注射剤投与・採血体験などの実習や医療面接技法などの講義を通して、薬学部の人材養成目的である医療の現場で実践的な能力を発揮できる薬剤師の養成を図ることができました。更に、人体解剖模型を用いた教育や金沢医科大学での人体解剖見学学習の実施により、体のつくりを知るのみならず生命の尊さや医の倫理を体得しました。薬学部での臨床実学教育の成果は、学生の医療に対する意識の変革に十分な効果をもたらしています。未来創造学部では、国際人養成の一環として1年次生を対象に中国の姉妹校で、語学や体験型授業、日中の異文化を体験する中国研修を実施しました。また、優れた語学実践力を養うことを目標に、英語・中国語・日本語のスピーチコンテストを開催しました。語学講義で導入しているプロジェクトの成果により選ばれた学生が発表し、他の学生の模範となることで相互向上の一助となっています。4年次生には、各々の研究テーマに沿った成果品の作成を義務付けており、その成果を4日間にわたる卒業研究発表会で、各々がこれまで学習した母国語以外の語学を用い、教員・後輩に披露しました。

(3) 姉妹校との連携と海外研修の促進

本学は現在、海外47の大学と提携を結び、国際交流を推進しています。今年度はこれらの海外姉妹校と連携し、中国研修や長期・セメスター・短期留学、グローバルプログラム等、さまざまな海外研修を実施しました。総勢293人の学生が各研修に参加し、海外で貴重な体験を得ました。そのうち中国研修とグローバルプログラムの台湾班、韓国慶南班は日本学生支援機構の留学助成金対象事業(SV)に認定されました。韓国東国班は同機構の交換留学助成金対象事業(SSSV)に認定されました。

(4) アルベスシステム等の情報教育の充実と展開

アルベスの利用を促進させるため、魅力ある学生向けコンテンツを制作しています。教員との連携を強化し、アルベスの利用を前提とした授業の仕組みを構築しました。薬学部では国家試験対策としてアルベスの小テスト機能を利用して、小テスト（模試）を教員が作成し、実施することにより問題点を把握し、授業の改善等を行い、学生の理解度向上に繋げました。また、海外提携大学との遠隔講義を実施し、入学前教育の一助としています。特にオンデマンドシステムサーバ及び学生向けコンテンツを閲覧する端末、遠隔事業用TV会議システム機器、ネットワーク機器を更新しました。

2. 学部教育に関する事項

【薬学部】

(1) 薬剤師国家試験の合格対策

6年制薬学部2回目の薬剤師国家試験では、合格率85%達成を目標に教育を実施しました。8月の中間試験までに基礎及び理論問題領域を中心としたまとめ講義及びベーシック講義を行い、中間試験以降に理論及び複合実践問題領域を中心としたアドバンスト講義を実施しました。成績下位者には当日中に学習内容を完全に理解できるまで指導を徹底しました。年間での到達目標を設定し、毎月1回の実力試験で学生一人ひとりの状況を把握し、研究室主宰教員より学生に結果をフィードバックの上、面談指導を実施しました。薬学ゼミナールによる講義として特別講義、複合問題対策、強化講義及び直前講義を開講しました。次年度に向けて研究室主宰教員、薬学教育推進センターによる個別指導の徹底及び学生の成績に応じたクラス編成等を実施します。

(2) 共用試験の合格対策

薬学共用試験に合格できる知識・技能・態度を修得するため、4月から年間を通じて実務事前学習の中で対策指導を行っています。OSCEは受験生全員の合格を達成、CBTは再試験直前まで個別指導や土曜日補習などを徹底しました。次年度のCBTについては、学内CBTトレーニング(北陸大学SSPE)の実施状況、講義出席状況及び試験結果等について担任教員の面談指導を徹底します。

(3) 病院薬局実務実習の効率的な実施

5年次の実務実習は、144人を対象に薬局75施設、病院23施設で行いました。教員による各施設の定期的な施設訪問・指導により円滑に実施することができました。今年度初めての試みとして実務実習前に「白衣授与式」を行い、目的意識の醸成を図りました。臨床現場における実習を通じて、薬剤師としての業務と責任などを理解し、調剤・製剤・服薬指導・健康相談・医療機関や地域との関わりについての基本的な知識・技能・態度をより深く修得しました。また、指導薬剤師の養成のために、北陸地区調整機構・薬剤師会・病院薬剤師会等と連携し、年3回の研修会(ワークショップ)の開催に協力し、指導薬剤師育成に努めています。

(4) 薬剤師養成専門コースの充実と実践

専門分野に合わせ、5年次から高度医療薬剤師・東洋医薬学・健康医療薬学の3コース制を導入しています。高度医療薬剤師コースでは専門の治療分野の高度な知識と実践的な能力を修得するため、専門薬剤師や臨床試験コーディネーター等からの特別講義や現場体験、金沢医科大学病院での高度医療の病院実習を行っています。東洋医薬学コースは漢方医や漢方薬局及び生薬系の製薬メーカー薬剤師からの特別講義や現場体験、中国及び韓国での医療現場や生薬市場などの体験教育を行いました。健康医療薬剤師コースは予防・健康医学や感染症などを専門とする医師や研究者、科学捜査などの専門職、ドラッグストアの薬剤師からの特別講義を行い、ドラッグストアでの現場体験学習を通じてセルフメディケーションにおける薬剤師の役割及び症例や患者対応などを、PBL(Problem Based Learning)を通じて問題解決のプロセスを学びました。

(5) 東洋医薬学導入教育プログラムの充実

薬学部1年次の「東洋医薬学導入プログラム」には88人の学生が参加し、姉妹校である天津外国語大学、天津中医薬大学の全面的な協力のもと、中国語学習、中国文化体験から現地での製薬企業見学・漢方薬局・薬用植物園等の見学をはじめ、実際の医療現場における東洋医薬学を学習し、体験しました。これらを通じて、学生の東洋医薬学への関心・興味を高め、国際性や広い視野を持った医療人育成への導入教育としての目的を達成しました。

【未来創造学部】

(1) 語学教育の充実

未来創造学部の英語履修者を能力別に小クラスに編成し、きめ細かい指導を行っています。マクミランの「グローバル」を教科書とし、レベル別のテキストを用い、学年を追って内容がレベルアップします。能力の測定にはTOEICを用い、TOEIC IPを年2回、学内模試を年2回、履修者全員に対して実施しました。中国語も、少人数クラスで個人の能力に合わせた指導を行っています。1年次の中国研修の参加により中国並びに中国語への関心が高まり、中国語の履修者は増加傾向にあります。国際教養学科の学生は半年から1年間の留学をする者が多く、帰国後は語学能力、プレゼン能力が向上しています。例年12月にスピーチコンテストを実施しており、外国語で意見を発表する機会を設けています。英語、中国語ともに科目と連動し全員原稿を作成し応募することを義務づけています。

(2) ゼミ教育研究活動の充実・強化

3年次ゼミ並びに4年次卒業研究での活動は基本的にゼミ担当教員専門分野の演習的学修活動です。ゼミによっては、学外での研修を行う場合もあり、今年度は延べ25件の学外活動がありました。その内容としては、山中温泉での文化資源調査、早稲田大学との合同合宿、北東アジアに関するフォーラム参加等がありました。その他、留学生に日本を理解してもらう観光研修、卒業研究合宿、懇親会等を行い、ゼミ教育研究活動の充実・強化を図りました。

【国際交流等】

(1) 東アジアの国際社会・経済・文化研究プログラムの充実

今年度は中国・韓国・台湾の姉妹校で研修を実施しました。8回目となる三大学合同教育プログラムは、本学が幹事校となり実施しました。韓国・慶熙大学校、中国・瀋陽薬科大学から各6人の参加者を集め、本学薬学部生6人を加えて18人の学生が参加しました。本プログラムは、日本学生支援機構留学助成金対象事業に認定されました。プログラムでは中日韓の様々な医薬について講義を行い、学生間で英語による活発なディスカッションが行われました。中国・韓国の学生は金沢の伝統文化を体験し、日本への理解を深めました。

(2) 留学生の日本語能力の強化

日本語の授業は、プレースメントテストの結果をもとに学生それぞれの日本語レベルに配慮して行っています。授業内容はアウトプット・インプット、資格試験のためのものなど、授業目的を明確にし、日本語能力の向上に繋がるものとしました。とりわけ、プレゼンテーションを取り入れた授業は、学生の日本語の実践的なコミュニケーション能力の向上に有益でした。また、留学生の日本語能力試験対策として、後期の第5時限に日本語集中講義を実施しました。

(3) 留学生と日本人学生との交流の促進

4月の花見の会、5月の春季研修（立山・雪の大谷）、7月のビーチデーでのバーベキュー、8・9月の各種グローバルプログラム、10月の秋季研修旅行（白山スーパー林道・白川郷・高山）、2月の春節を祝う会など各種イベントを開催しました。従来は留学生だけの行事でしたが、日本人学生に対して積極的に参加を呼び掛け、学生間の交流を促進しました。留学生と共にこれらの行事に参加することで国際交流の意識が高まり、海外へ目を向ける学生の増加に繋がっています。

3. 学生生活に関する事項

(1) 生活習慣の改善の推進

毎日朝食を食べることを習慣化することで規則正しい生活習慣を身につけるため、学食で朝食を安価で提供し食育面から学生を支援しています。1日の始まりから脳の活性化を促し、学生生活がメリハリのある充実したものになることを目指しています。学生の経済的負担を軽減し、気軽に朝食を取る習慣を徹底できたことは意義深いことです。今後も有意義な学業生活のスタートが切れるように支援を継続していきます。

(2) 留学生の生活指導の強化

新入留学生に対しては、来日直後にガイダンスを実施し、日本の文化・風習・習慣、アルバイトに係る注意点、居住に係る各種問題やゴミの分別、交通安全などを指導しています。出席や成績に問題のある学生については個別面談を行い、早期の問題解決に努めています。また、11月から12月にかけて留学生を対象に学習面（出席状況・GPA・日本語能力試験）や生活面（資格外活動の有無・アルバイト内容・時間・運転免許有無）など、詳細な質問項目をもとに面談を行い、個々の状況を把握しました。

(3) 課外活動の整備・見直し

課外活動の活性化を図るため、登録費や参加費、合宿費や全国大会出場補助、定期演奏会会場利用料などの費用面の支援や、学内施設・環境の充実を図り、課外活動に積極的に参加できる環境を整えています。強化指定クラブとして、サッカー部、アイスホッケー部、柔道部、硬式野球部、卓球部、自転車競技部があり、全日本学生選手権（インカレ）には、団体としてアイスホッケー部、男女サッカー部、柔道部、自転車競技部、卓球部が出場を果たしました。個人では硬式テニス部、柔道部、卓球部、トランボリン部もインカレ出場選手を輩出しており、強化の成果を上げています。文化系クラブは学外の様々な場所へ出向き慰問演奏会やコンサートの実施など積極的な活動を行いました。

4. 就職指導等に関する事項

(1) 総合的就職指導体制の確立

薬学部の就職活動支援は、1年次では早期体験学習及び各分野で活躍する卒業生、医療関係者を招いての講演会を通じ、職業意識、薬剤師を志す目的意識の醸成を図り、4年次前期から5年次の就職活動開始時期までガイダンスや就職講座を実施し、5年次就職解禁の12月には学生が就職活動に万全の体制で臨めるような支援メニューを実施しました。5年次の学内合同企業説明会、6年次には個別企業説明会及び新たに病院対象の仕事研究会を開催した結果、内定率は100%近い数字を達成することができました。未来創造学部では、個別支援を徹底し、模擬面接の実施回数を増やす等、実践的指導に注力しました。基幹プログラムである外部講師による就職対策講座を増やし、より幅広い知識・スキルの学習機会を提供し、キャリア教育に資しています。また、ゼミの担当教員やクラブの指導者による指導、情報交換や所属学生へのガイダンスを随時実施しました。一方、学生アドバイザーによる自主的な面接・討論練習会を連日開催しました。これらの結果、学内企業説明会への参加が促され、出席企業数、参加学生数とも前年を上回ることができました。大学構成員を中心に企業や各公的機関とも連携しながら、多角的な就職指導を行っています。

(2) 社会人になるための基礎力の充実・強化

未来創造学部では、学生が社会人として必要となる素養を身に付け、自身のキャリアや将来像に向けた具体的な行動を開始できるよう、就職対策講座に文章作成技法や IT リテラシー等の要素を盛り込み、広く基礎力の涵養を促しています。これと合わせ、今年度からインターンシップを学部科目として単位認定し、参加希望者には同講座への出席を必須として事前教育を行うことで、早期からの動機付けと就業体験参加を推進しました。また、採用選考で課される筆記試験の理数系対策として、外部講師による演習を通年開講しました。更に、WEB 学習システムを全学年向けに導入し、一般教養、経済、時事等を網羅した基礎学力向上の方策を取ると共に、低学年次生のリメディアル教育にも資しています。

(3) 留学生の進路指導の強化

大学院進学希望者には、ガイダンスを行い、受験準備について具体的説明を行うと共に、難関校に進学した卒業生を学内に迎え体験談発表会や懇親会を開催し、経験の伝達に努めました。就職希望者には3年次前期から進路面談を進め、希望を把握しながら、就職対策講座により就職意識、基本知識・スキルの学習機会を提供しました。国内就職希望者に対しては都市圏へのバスツアー、留学生のみを対象とする学内合同企業説明会を初めて開催し、より厚い活動支援を行いました。また、国内外の留学生採用企業に向け本学留学生 PR 冊子を製作・送付し、情報を発信しました。

5. 施設・設備に関する事項

(1) 教育環境の整備

安全で充実した教育環境を提供するため、各キャンパスの整備事業を進めました。太陽が丘キャンパスについては、キャンパス内及び通学路の安全性を向上させるため父母会の協力を得て防犯カメラ増設工事を行いました。太陽が丘 1 号棟では空調設備の一部改修工事を実施し、太陽が丘 2 号棟では空調設備の省エネ改修工事に着手しました。薬学キャンパスでは、利便性を向上させるため電話設備の更新工事や通学路の消雪設備改修工事を行いました。男子学生寮である松雲会館は、寮室、リビング、厨房等の整備工事を行いました。

(2) 情報教育設備の整備・充実

今年度は、学生の大学生活をサポートする学生支援システムの機能強化のため、学生情報読み取りサーバ及び機器（学生アンケート、国家試験模擬試験の情報等）を導入しました。これにより、様々な学生情報を取り込むことが可能となり、本システムで管理、運営している学生情報を強化しました。また、昨年度から運用を開始している入学者選抜システムを全選抜区分で利用を開始し、学務システムとの連携を図り、迅速な学生情報の移行を実現しました。その他、講義室、実習室、演習室の情報機器及びネットワークセキュリティ強化機器を更新しました。

6. 学生募集に関する事項

(1) 本学の特色を明確かつ効果的に伝える積極的・集中的な活動

高校訪問、オープンキャンパス、進学説明会、高校教諭の個別大学訪問誘致等の広報や、メディア、出張講義、セミナー開催等の広報を継続して実施し、教育内容、施設、奨学金制度の周知を図りました。薬学部は、6年制薬学部の必要性を説いた「薬学セミナー」を中部6県と沖縄県で開催し、医療人薬剤師を育成する本学の魅力を詳細に伝えました。未来創造学部は、地元の高校を中心に広報を重ね、大学見学や高校が実施する合宿への場所の提供、本学学生の派遣等を通して高大連携をより発展させることで、国際教育とマネジメント教育を浸透させています。

(2) 重点地域への持続的な活動

入学者の潜在的可能性が見込まれる北信越及び東海、関西地区並びに北海道、沖縄県で、高校教諭、生徒と直に接し、重点的かつ長期的な広報活動を行いました。高校内での進学説明会、出張講義、大学内での勉強合宿、模擬講義、模擬実習、スーパーサイエンスハイスクールへの協力などさまざまな高大連携事業に取り組み、本学と重点地域の高校が密接に連携した教育事業を積極的に推進しています。これらの活動により、教育機関としての本学の存在価値が高められました。

(3) ホームページ等を利用した大学情報発信の充実

大学ホームページをリニューアルし、すべての広報活動を大学ホームページに誘導させることを意識し、情報発信を強化しました。特に「受験生サイト」による受験生への効率的な大学情報の提供、「動画サイト」による大学 CM や学生の声などのリアルな情報発信、大学ニュースの更新頻度の向上等を通じてタイムリーに大学情報を提供し、本学の特長や独自性を幅広く社会に発信しました。

7. 予算の効率的な執行及び削減に関する事項

(1) エコキャンパスに向けた取り組みの実施

ハード面では、太陽が丘2号棟の空調設備の省エネ・インバーター化工事を行いました。太陽が丘1号棟、2号棟の空調設備のデマンド制御を行い最大電力のピークカットにより節電を実施しました。ライブラリーセンターにでも空調設備の夏季間欠運転によるピークカットにより節電を実施しました。薬学キャンパス実験科学棟でも自家発電機を設置して夏季及び冬季の最大電力のピークカットによる節電を実施しました。ソフト面については、夏季の講義室等でブラインドによる遮光熱を図りました。また、体育施設サウンドトラックやライブラリーセンターは、開館時間の調整により光熱水費の削減を行いました。遮光熱及び学生の省エネ啓蒙のため、効果的な建物にゴーヤ、朝顔などのグリーンカーテンを設置しました。

(2) 入学時及び在学時の奨学金等の見直し

平成25年度入学生全員に対し授業料を減免、スポーツ奨学生は強化クラブごとに金額を設定し、対象学生を認定しました。在学生に対する奨学金は、地域奨学金制度等の充実に伴い、成績優秀者奨学金で選定人数を削減、資格取得奨学金は金額の見直しを行っています。リーダー養成奨学金の成績基準及び資格取得奨学金制度の根本的な見直しを行い、平成26年度入学生から新制度を適用します。

(3) 担当科目や実務内容等の実績に応じた人員配置の実施

客員教授及び非常勤講師の勤務内容に基づき、授業時間数及び専任教育職員との調整により実績に応じた人員配置を実施しました。キャンパス相談室は、学生の利用状況を確認し、実態に応じた人員を配置しました。ライブラリーセンターやコンピュータ教室は、学生の教務スケジュールに即した開館時間を設定し、人員配置の見直しを図りました。

(4) 効果的な広報活動の実施

あらゆる広報活動をホームページに誘導させることを意識して展開しました。重点地区と地元（北陸3県）に絞って高校訪問を行い、大学説明、ポスター掲示の依頼、受験生サイトの紹介等を通じて、ホームページのアクセス件数を増加させるとともに、オープンキャンパスの参加者増につなげました。また、テレビCM、ラジオCM、新聞広告により、オープンキャンパスや入試情報を効果的に案内しました。薬剤師の将来像を啓蒙するために「薬学セミナー」を開催し、多くの高校生や高校教員が参加しました。新聞紙上のフリーパブリシティも志願者増に効果を上げています。

8. その他の事項

(1) 附属太陽ほがらか薬局

新入生の早期体験学習で、薬局と保険薬局、薬局内において必要な掲示物・記載事項・記載義務のある薬品・管理表等についての説明、調剤室で模擬調剤の体験を実施しました。実務実習生の再教育から実務実習を最後までできなかった学生の再実習の前に、挨拶、言葉使い、患者さん対応時の留意点、薬局内での他人とのかかわり方等について研修を実施しました。近隣の福祉施設のイベント開催時には、薬の相談コーナーを開催し、地域に密着した薬局を目指しています。

(2) 北陸大学オープン大学

受講生に人気がある英語・韓国語の授業を、受講生のレベル・ニーズに合わせて開講しました。また、漢方をテーマにした健康講座を実施し好評を得ています。その他にも地域貢献の一貫として、フットボールパークを利用した「こどもサッカー教室」、実験科学棟での「こども科学実験教室」を開講するなど、地元の幅広い年齢層に対し、大学が有する様々な知識を涵養しました。

(3) 北陸大学孔子学院

今年度は中国から派遣された副学院長と孔子学院本部からの2人の講師で、目的別、ニーズ別、レベル別、曜日別と受講生の多様な要望に応じた講座を開講しました。また、新たに企業内語学講座を開設しました。6月には「上海戯劇学院芸術団金沢公演」を開催し、多くの観客を集めました。7月には、未来創造学部と孔子学院の共催で「中国進出・ビジネス展開における法的問題と留意点」をテーマとしたセミナーを実施し、未来創造学部生はもとより、中国進出をめざす北陸三県の企業からの多数の参加がありました。その他、南京大学との共同出版事業、高校における中国語授業、山中町セミナーハウスを利用した中国語・文化関連の無料講座を実施するなど、1年間の事業を通じ、地元地域の中国文化理解を促しました。

財務の概要

1 資金収支計算

資金収支総括表

(収入の部)

(単位 百万円)

科 目	予 算	決 算	差異
学生生徒等納付金収入	3,920	3,930	10
手数料収入	20	27	7
寄付金収入	0	7	7
補助金収入	425	473	48
資産運用収入	142	202	60
資産売却収入	3,050	3,069	19
事業収入	8	13	5
雑収入	149	160	11
前受金収入	451	531	80
その他の収入	161	167	6
資金収入調整勘定	547	699	152
当年度資金収入合計	7,779	7,880	101
前年度繰越支払資金	2,822	2,822	0
収入の部合計	10,601	10,702	101

当年度資金収入合計は、補助金収入や資産運用収入の増加等により101百万円予算を上回りました。

(支出の部)

科 目	予 算	決 算	差異
人件費支出	2,035	1,966	69
教育研究経費支出	1,821	1,650	171
管理経費支出	517	432	85
施設関係支出	37	31	6
設備関係支出	110	103	7
資産運用支出	3,250	3,246	4
その他の支出	131	127	4
予備費	220	0	220
資金支出調整勘定	50	91	41
当年度資金支出合計	8,071	7,464	607
次年度繰越支払資金	2,530	3,238	708
支出の部合計	10,601	10,702	101

当年度資金支出合計は、経費及び予備費の未使用等により607百万円予算を下回りました。

次年度繰越支払資金は、708百万円予算を上回りました。

当年度資金収支差額	292	416	708
-----------	-----	-----	-----

(注)上記の表の金額は、百万円未満を四捨五入する。なお、以下の表についても同様である。

2 消費収支計算

消費収支総括表

(消費収入の部)

(単位 百万円)

科 目	予 算	決 算	差異
学 生 生 徒 等 納 付 金	3,920	3,930	10
手 数 料	20	27	7
寄 付 金	0	19	19
補 助 金	425	473	48
資 産 運 用 収 入	142	202	60
資 産 売 却 差 額	147	150	3
事 業 収 入	8	13	5
雑 収 入	149	160	11
帰 属 収 入 合 計	4,811	4,974	163
基 本 金 組 入 額 合 計	420	327	93
消 費 収 入 の 部 合 計	4,391	4,647	256

消費収入の部合計は、補助金や資産運用収入の増加等により256百万円予算を上回りました。

(消費支出の部)

科 目	予 算	決 算	差異
人 件 費	2,019	1,905	114
教 育 研 究 経 費	2,411	2,182	229
(内 減 価 償 却 額)	590	529	61
管 理 経 費	627	534	93
(内 減 価 償 却 額)	110	98	12
資 産 処 分 差 額	6	8	2
徴収不能引当金等繰入額	35	34	1
予 備 費	252	0	252
消 費 支 出 の 部 合 計	5,350	4,663	687

経費及び予備費の未使用等により、消費支出の部の合計は687百万円予算を下回りました。

帰 属 収 支 差 額	539	311	850
当 年 度 消 費 収 支 差 額	959	16	
前 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	542	542	
翌 年 度 繰 越 消 費 支 出 超 過 額	1,501	558	

上記の結果、帰属収支差額は850百万円予算より改善しました。また、当年度消費収支差額は16百万円の支出超過となりました。

(注)帰属収支差額 = 帰属収入 - 消費支出

3 貸借対照表

貸借対照表

資産の部

(単位 百万円)

科 目		本年度末	前年度末	増 減
資 産	固定資産	31,721	31,904	183
	有形固定資産	16,772	17,260	488
	その他の固定資産	14,949	14,644	305
	流動資産	3,668	3,112	556
合 計		35,389	35,016	373

負債の部、基本金の部、消費収支差額の部

科 目		本年度末	前年度末	増 減
負 債	固定負債	992	1,053	61
	流動負債	615	492	123
	計	1,607	1,545	62
基本金		34,340	34,013	327
消費収支差額		558	542	16
合 計		35,389	35,016	373

正味資産	33,782	33,471	311
減価償却累計額	10,714	10,223	491

正味財産は、
前年度より311
百万円増加し
ました。

正味資産 = 資産 - 負債 (= 基本金 + 消費収支差額)

4 経年比較

大科目又は主な科目について、5年間の推移を記載します。

【資金収支計算書】

(単位:千円)

収入の部	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
学生生徒等納付金収入	4,739,786	4,061,572	4,046,975	4,165,440	3,929,685
手数料収入	30,151	24,722	21,235	21,390	27,127
寄付金収入	12,590	15,500	9,300	10,100	7,100
補助金収入	692,965	590,886	356,475	420,240	473,384
資産運用収入	328,685	220,266	248,653	238,144	202,123
資産売却収入	1,000,321	800,112	500,209	3,934,274	3,068,749
事業収入	15,453	16,608	10,773	11,918	13,448
雑収入	165,814	105,730	88,809	159,697	160,116
借入金等収入	7,720	0	0	0	0
前受金収入	664,060	707,559	476,483	403,253	530,943
その他の収入	407,458	363,596	193,090	230,497	166,463
資金収入調整勘定	1,154,019	834,537	825,980	642,922	699,094
前年度繰越支払資金	1,882,778	2,127,634	2,265,935	1,281,744	2,821,693
収入の部合計	8,793,762	8,199,648	7,391,957	10,233,775	10,701,737

支出の部	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
人件費支出	2,427,337	2,206,234	2,184,150	2,170,136	1,966,158
教育研究経費支出	1,599,341	1,567,850	1,786,300	1,792,303	1,650,489
管理経費支出	664,094	661,214	705,253	694,759	432,266
借入金等返済支出	5,570	6,780	4,300	1,050	0
施設関係支出	239,062	83,746	36,852	43,845	30,958
設備関係支出	278,076	181,552	86,460	75,706	102,765
資産運用支出	1,384,530	1,105,683	1,203,865	2,605,992	3,246,070
その他の支出	194,166	231,917	184,085	121,390	126,750
資金支出調整勘定	126,048	111,263	81,052	93,099	91,468
次年度繰越支払資金	2,127,634	2,265,935	1,281,744	2,821,693	3,237,749
支出の部合計	8,793,762	8,199,648	7,391,957	10,233,775	10,701,737

【消費収支計算書】

(単位:千円)

消費収入の部	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
学生生徒等納付金	4,739,786	4,061,572	4,046,975	4,165,440	3,929,685
手数料	30,151	24,722	21,235	21,390	27,127
寄付金	22,275	24,522	16,850	13,247	18,759
補助金	692,965	590,886	356,475	420,240	473,384
資産運用収入	328,685	220,266	248,653	238,144	202,123
資産売却差額	50	0	2,040	35,112	149,676
事業収入	15,453	16,608	10,772	11,918	13,448
雑収入	165,814	105,729	88,809	159,697	160,116
帰属収入合計	5,995,179	5,044,305	4,791,809	5,065,188	4,974,318
基本金組入額合計	726,436	358,550	326,491	344,137	326,861
消費収入の部合計	5,268,743	4,685,755	4,465,318	4,721,051	4,647,457

消費支出の部	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
人件費	2,401,355	2,170,774	2,171,127	2,180,245	1,905,217
教育研究経費	2,276,002	2,174,944	2,369,228	2,347,132	2,181,718
管理経費	811,870	764,799	818,005	801,143	533,634
資産処分差額	3,622	78,122	7,396	10,096	8,126
徴収不能引当金等繰入額	16,856	129,565	28,149	21,335	34,266
消費支出の部合計	5,509,705	5,318,204	5,393,905	5,359,951	4,662,961
当年度消費収支差額	240,962	632,449	928,587	638,900	15,504
前年度繰越消費収支差額	1,897,870	1,656,908	1,024,459	95,872	541,978
基本金取崩額	0	0	0	1,050	0
翌年度繰越消費収支差額	1,656,908	1,024,459	95,872	541,978	557,482

【消費収支計算書関係比率の推移】

(%)

財務比率	算式(×100)	評価	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	▼	40.1	43.0	45.3	43.0	38.3
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$		38.0	43.1	49.4	46.3	43.9
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	▼	13.5	15.2	17.1	15.8	10.7
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	▼	104.6	113.5	120.8	113.5	100.3
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	~	79.1	80.5	84.5	82.2	79.0
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入} - \text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$		8.1	5.4	12.6	5.8	6.3

評価欄 : 高い値が良い ▼ : 低い値が良い ~ : どちらともいえない

【貸借対照表】

(単位:千円)

科目	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
固定資産	34,025,540	33,658,170	33,757,606	31,904,022	31,721,288
流動資産	2,515,966	2,597,420	1,599,155	3,112,440	3,668,358
資産の部合計	36,541,506	36,255,590	35,356,761	35,016,462	35,389,646
固定負債	1,096,839	1,057,209	1,043,136	1,053,245	992,303
流動負債	802,616	830,229	547,569	491,924	614,693
負債の部合計	1,899,455	1,887,438	1,590,705	1,545,169	1,606,996
基本金の部合計	32,985,143	33,343,693	33,670,184	34,013,271	34,340,132
消費収支差額の部合計	1,656,908	1,024,459	95,872	541,978	557,482
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	36,541,506	36,255,590	35,356,761	35,016,462	35,389,646

【貸借対照表関係比率の推移】

(%)

比率名	算式	評価 1	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}} \quad 2$		94.8	94.8	95.5	95.6	95.5
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$		313.5	312.9	292.0	632.7	596.8
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}} \quad 3$	▼	5.5	5.5	4.7	4.6	4.8

1 評価欄 : 高い値が良い ▼ : 低い値が良い

2 総資金 = 負債 + 基本金 + 消費収支差額

3 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額